豊橋市
竹本弥生

サモアでの5日間

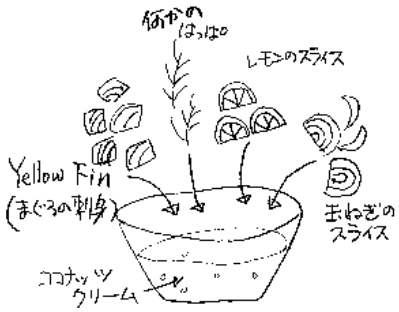
土曜日	朝：アピアの散策。	午後：バスでホームステイ先へ。
日曜日	朝：教会に行く。	午後：リタシニのビーチファレ(海の家)に。
月曜日	朝：海で泳ぐ。	午後：無人島のビーチファレに。
火曜日	朝：海で泳ぐ。	午後：滝の見学をしつつアピアに戻る。 玉木さんの同僚とのパーティ。
水曜日	朝：買い物	午後：サモア大学訪問

右上のメガネをかけた男性が玉木さんです。

玉木さんのお別れ会

私たちのサモア滞在を大いに助けてくれたのが玉木さんです。彼はＮＴＴの社員でありながらＪＩＣＡの派遣で電話線を普及させるボランティアとしてサモアに住んでいます。彼は近く任期満了で帰国するので、同僚とのお別れ会を予定していました。当日30人ほどの同僚が集まって、とにかく、飲む、飲む、飲む…。ビールが300本くらい消費されました。私たちが日本から持っていった「いいちこ」は「サモアでは40度までの酒はストレートだ！」ということでまわしのみです。

同僚の家族からお料理の差し入れがありました。オカ、鳥のから揚げ、サラダ、サンドウィッチなどです。しかし、飲むのに忙しい彼らはあまり食べません。ひたすらしゃべりながら飲むのがサモア流のようです。日本人の玉木さんはよく生き延びられたな、と感心してしまいます。



「オカ」はサモアではよく見られる料理です。ココナッツクリームにいろいろな具材を入れ、少し‘くたっ！’としたら食べます。サラダのようにさっぱりとした甘味があります。

サモア大学

National University of Samoa。ここは日本のＯＤＡとＪＩＣＡのバックアップで造られた総合大学で、1500名の学生が学んでいます。

副学長の原晃（あきら）さんにお話を伺うことができました。ここでは日本人向けにサマースクールを計画していて、そこで知ってほしいことは

・サモアにおけるＪＩＣＡの活動
・ポリネシア学
・エコロジーを基礎にしたサモアの発展

だそうです。数人の日本人教師が派遣されていて、主に、日本語、音楽を教えているそうです。音楽教師養成クラスを見学したとき、サモア人の女性教師の話を聞きました。「教師養成クラスで教えることで重要なことは？」と聞いたところ、「サモア人は教会音楽に小さなときから触れているため、音楽やダンスのセンスは非常に発達しているが、それを人に伝えていくためには、歴史や背景をきちんと理解しておくことが重要である。今の問題は楽器や道具が足りないこと」と答えがありました。サモアの明日を担う若々しい力に期待する！詳しくはホーム・ページで…http://www.nus.edu.ws

情報・安心・交流の拠点
あなたの郵便局
豊川市内郵便局

趣味の民芸・土産・造花フラワー店
（株）林電工
恋のれん結び堂
造花フラワー師範　林　叔子
〒442−0027　豊川市桜木通5丁目1番地　（0533）85−9977